

2 - 2 目的

市川ゆかりの文学等に関する資料を収集、保管、展示して、市民の利用に供し、学習の機会及び活動と交流の場を提供することにより、地域の文化、市民の教養の発展に寄与することを目的とする。（課題 図書館法 博物館法 との関わり）

2 - 3 性格

市川の文学の特徴は、万葉の昔から現在の作家まで、有名無名を問わず、しかも、映画、演劇、演芸、児童文学、出版、市民の文芸活動など、「文芸」ないし「文化」的なものも、周辺に抱え込みながら、広範囲に及んで展開している点にある。

市川らしい文学館は、その広い文芸風土の沃野に光を当て、市川の文芸の魅力を紹介していくことに意味がある。

したがって、他に多く見られるような、明治以降の小説・詩歌の作家を中心とした展示を主とする文学館的なものでは、市川の文学を充分顕彰することはできないと思われる。

また、水木洋子寄贈資料が、現段階での中核資料であり、水木洋子氏に関する情報や、映画・脚本分野を、大きな柱に据えることが重要と思われる。

さらに、全国的に注目される文学館としては、永井荷風氏に関する情報、あるいは、短詩型文学が盛んな地域であることから、短詩型文学に特化した資料構築などを、付加することも考えられる。

「街かどミュージアム都市」構想から見た場合、場所自身が意味を持つ、郭沫若記念館、水木洋子邸、木内ギャラリー、紫烟草舎など、エコ・ミュージアム論でいう“サテライト施設”のさらなる充実と連携を図り、その統合体としての“コア施設（中核施設）”となるような文学館の整備が望まれる。

文学館のかたち

全国的に文学資料を対象とするもの

（日本近代文学館、俳句文学館、日本現代詩歌文学館、神奈川近代文学館など）

特定の地域にゆかりのある文学者を対象とするもの（地域文学館）

（世田谷文学館、鎌倉文学館、さいたま文学館など）

特定の文学者を対象とするもの（個人文学者記念館）

（宮澤賢治記念館、林芙美子記念館、松本清張記念館、子規博物館など）

市川の場合は、 の性格を中心とし、 の性格（水木洋子、永井荷風など）を副とし、 の性格（短詩型文学など）を補助的に持たせるのが妥当と考える。